

マスクをしても「できること」

主幹教諭 松井 直樹

初夏の陽気になって、木々の緑がより鮮やかに感じられる季節になりました。

3月から継続していた臨時休業期間が間もなく終わろうとしています。保護者の皆様には、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、家庭内で子どもたちの感染予防や、基本的な学習・生活習慣づくりにご尽力いただき誠にありがとうございました。特に、新1年生の保護者の皆様には、親子共々楽しみにされていた入学式も終えないまま、義務教育の入り口となる小学校生活を自宅での生活や学習からスタートする形になってしまったこと、誠に申し訳ございませんでした。

さて、いよいよ6月1日(月)から学校再開の予定となりました。学校再開にあたって本校では、文部科学省が策定したガイドラインを基本とし、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の方策を立てました。今後、子どもたちの段階的な分散登校を皮切りにして、意図的・計画的に学校生活を再開してまいります。取り組みとしては、マスクの着用や手洗い、うがいの徹底に加えて、消毒体制の構築、3密(密閉、密集、密接)に配慮した学習環境づくりが挙げられますが、詳しくは本号次ページ以降をご覧ください。

一方で、子どもたちの気持ち、コミュニケーション行動にどのように寄り添うべきなのかについて、今後の学校再開における、新型コロナウイルス感染症の拡大防止策との両輪として考えていく必要があります。子どもたちには感染拡大防止のために、学校生活でのコミュニケーション行動においてこれまでにはなかった約束事が求められます。一般的に私達の日常的なコミュニケーションにおいて、言語を媒介にした言語的コミュニケーションと表情や身振り・声の調子など言語以外の媒介による非言語的コミュニケーションに大きく類別されます。さらに日常生活はその90%以上が非言語的コミュニケーション、中でも「表情」が占める割合が高いという研究結果もあります。今後の学校生活では基本的にマスクを着用しますが、私たちの「顔」は表情の主となる発信源と考えられる中、マスクは顔の表情を見えにくくします。よって、大人、子ども関係なく、人間同士のコミュニケーションには工夫が必要となります。そこでまず、身振り、手振りを使って工夫してコミュニケーションをする工夫ができるでしょう。また、表情の主たる発信源である顔からは、慣れない学校生活への不安な気持ち、思うようにいかず表れる怒りっぽい気持ちを振り払う「笑顔」、マスクの下であっても、相手を安心させる「全力の笑顔」の表現(目元まで)の工夫ができるでしょう。そして今こそ、言葉の力、そして思いやりの行動ではないでしょうか。社会的距離はあっても心理的距離は近付ける、そのためには「思いやりの行動や言葉」をいつも以上に積極的に発することなのです。それが「マスクの下できること」「マスクをしてもできること」です。そのようなことを子どもたちに寄り添い一緒に考えていきたいです。

最後に、学校に送り出す保護者の皆様にお願いたします。子どもたちの臨時休業期間中の頑張りを大いに称えてあげてください。大きな笑顔で、身振り、手振りで、そして思いやりの言葉や行動で・・・もちろん保護者の皆様のご努力も私たち教職員から称賛させていただきます。ありがとうございました。

6月1日(月)始業式に子どもたちに会えることを楽しみにしております。もちろん、子どもたちを迎える私たちのマスクの下は全力の笑顔です!